

さかいまち 議会だより

No. 149

平成22年2月1日発行

編集発行・茨城県境町議会
広報編集委員会

〒306-0495 境町391-1
TEL. 0280-81-1316
FAX. 0280-87-5873

ホームページアドレス
<http://www.town.sakai.ibaraki.jp>



圏央道利根川橋脚工事現場塚崎地内

より開かれた議会を目指して

議会議長 木村 信一



平成22年最初の「議会だより」発行に当たり、一言ご挨拶申し上げます。町民の皆様には、お健やかに平成22年の輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の6月には議員14名の改選がありました。その間、議会活動に対し暖かいご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年一年を振り返りますと、一月には初のアフリカ系アメリカ人と第44代アメリカ合衆国大統領にオバマ氏が就任、そして日本では、8月の衆議院議員総選挙において、自民党が1955年の結党以来、初めて衆院の第一党から転落し、民主党への政権交代が行われ、又、新型インフルエンザの影響拡大、更には長引く世界金融危機の影響や相次ぐ薬物事件など様々な出来事がありました。

なかでも、長引く景気低迷に加え、円高やデフレの影響で雇用情勢の悪化等、大変な一年でした。本年も厳しい経済情勢が依然として続いており、このような状況下での地方自治体を取り巻く財政状況は昨年以上に厳しくなることが予想されますが、少子高齢化の進展や環境問題、地域福祉施策の充実、さらには多種多様な住民ニーズに応えるための更なる効率的な行政運営等、難しい行政問題が山積しておりますが、次の世代に誇りを持ってつないでいく境町を築いて行かなければなりません。長寿社会においては、競争よりも協調が、物の豊かさよりも心の豊かさ求められている時代であり、自分が「してもらった」ではなく、自分が「してもらう」ではなく、わずかも自分に「何ができるか」を考へる時代であります。

私たち議会は、地方自治体の意思

決定の最高機関として、町政のこれらの諸問題を慎重に審議し、住民福祉の向上のために、心新たに邁進する決意であります。

議会は、昨年の改選から半年以上経過し、その間、圏央道境インターチェンジ（仮称）周辺開発調査特別委員会及び行政改革特別委員会を設置しました。

圏央道特別委員会では、税収や雇用の拡大など、圏央道の波及効果を最大限まちづくりを生かすための施策を現在協議検討しております。

また、行政改革特別委員会では、ますます多様化する住民ニーズに適切に対処していくため今後の行政改革の取り組みの方向性、さらには、町が実施する事業等について、町民の視点で議論し、その意見を取り入れ見直す必要があることから事業仕分けについて調査研究をしております。

そして、昨年第四回定例会においては、平成24年度開通が予定されている圏央道が県内道路事業費の最大40%が削減され、つづばジャンクションと五霞インターチェンジを経由して、久喜白岡ジャンクションを結ぶ区間の供用開始時期の見直しの報道が伝えられました。

このことは、まちづくりを進める境町にとって、地域の活性化や自立的な発展に多大な影響を及ぼすことから議会では、「首都圏中央連絡自動車道の着実な整備を求める意見書」を政府関係機関に提出しました。

終わりに私たち議会は、町民の皆様の負託を受けた責務と役割の重大さを自覚し、意思決定の最高機関として、権威と品位を低下させることなく、身近なわかりやすい議会、より開かれた議会を目指し、活発な議会活動に取り組む決意でありますので、今後とも議会に対するご支援とご協力をよりよくお願い申し上げますと共に、町民の皆様のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。挨拶といたします。